

## 名古屋オリンピック インタビューレポート

現在書店を経営されてみえる方で、当時名古屋オリンピックの反対運動のメンバーの一員だった方にインタビューをさせていただきました。

反対運動をしていた人たちは年齢も幅広く（因みに林さんは当時20代後半）、政党もバラバラで、これまでの市民運動では同じ党派の人が動員されて動いていることが多かったため、当時としては珍しいことだったそうです。そんなメンバーの一員として関わってきたことをもとにお話してくださいました。

当時の名古屋の街全体の印象としては、もちろんオリンピックくるぞという雰囲気はあったようですがオリンピックの話題で持ち切り、といった感じでもなく、一般の市民の人たちは半信半疑のような様子だったそうです。だから行政側が盛り上げるためにグッズをつくったり、オリンピック音頭みたいなをつくったりしてたんじゃないかなと言っていました。

そんなに街全体にオリンピック開催に執着がなかったのに、そもそも名古屋以外でオリンピックの候補にあがった都道府県は他になかったのかと思いたずねてみたところ、東京では既に東京オリンピックをやったし、関西の方では大阪で大阪万博をやった後だったし、他の県でどうこうというよりもそもそも日本自体が当時オリンピックをやるということに対して執着がそれほどまでになかったと言います。それに対して韓国はオリンピックを開催するために国を挙げてやっているという印象があったと言っていました。

オリンピックがソウルで決まるまでの1977年～1981年の間、メイン会場予定地でもあった平和公園でも、よく反対集会をやっていたそうです。その一環として加藤登紀子のライブをやったときの話を聞かせてくれました。開催場所は平和公園内の陸軍の射撃訓練所跡地のただっ広いところで、完全無料のライブ。数千人が集まったそうです。誰がどのようにして呼んだのか、交通費等もろもろのお金はどうしていたのか、など詳しいことはわからないけれど、大きなイベントだったからとても印象的だったと言っていました。

1981年、ソウルオリンピック決定のときはドイツのバーデンバーデンに当時の反対運動のメンバー、水田洋さん他10人程が現地へ行き、名古屋に残るメンバーは大須の七ツ寺共同スタジオでそのときを迎えたそうです。七ツ寺共同スタジオには4、50人程の人が集まり、当時は誰もが名古屋に決まると思っていたため、決定しても運動は続けて行くぞ、という意志の下、発表後の記者会見に向けて原稿も考えていたそうです。しかしそこでソウルでの開催が決定してしまい、記者会見用の原稿も急いで書き換え、先ほどまでこれからもやっていくぞ！と思っていたのになんだかポカーンといしてしまったと言っていました。それからは目標がある程度ないと活動していく理由もないので、グループは解散してそれぞれの持ち場に戻っていったそうです。しかし「今思うとここでの活動をきっかけにそれぞれがそれぞれの方向に進んでいって、いろんなところで市民活動だったりをしている。そのグループとしてのそこでの活動自体は終わったけど、それ以降もつながっていている感じはある。」と言っていました。

平和公園の自然保護の関係の人たちは「平和公園の自然を守る会」という会を設立しており、カタチや名前は変わっているが、今でも平和公園の自然を守る活動は続いているそうです。

名古屋オリンピックが決まるかもしれないと街全体が思っていた当時、平和公園以外の会場候補のひとつであったのが愛知県青少年記念公園（現在の愛・地球博記念講演）。当時その周辺は全くの更地で、オリンピック開催をきっかけに土地の値段が上がるのではないかと考えた人たちが土地を買っていたそうで、オリンピックがソウルに決まった時点でその人たちから当時の仲谷知事やその次の鈴木知事等への反発やクレームがすごかったそうです。

このままではいけないと思い、何とかしてオリンピックに変わる何かを探さなければならない。と探しに探してたどり着いたのが「愛・地球博」でした。名古屋オリンピックの時に問題となった自然破壊の問題を逆に取り上げ、万博のテーマを環境万博として設定する。お話を聞いて、オリンピックから万博へのつながりをはっきりと認識しました。

1988年の夏、オリンピック開催の年、何をしていましたか？という問いかけに対しては「覚えてないや。普通にしごとしてたな。」とっていました。それぐらい、ソウルに決まって以降はオリンピックに対して関心はめっきり少なくなっていたそうです。

今回インタビューの中で当時の様子と共に、実感することがいくつかありました。

ひとつは、名古屋オリンピックからいろんなことへつながっていたという実感。

オリンピックの反対運動から派生して、個々の市民運動につながったり、オリンピックの失敗が愛知万博開催につながったり。直接お話を聞き改めて実感しました。

もうひとつは、人とつながることのおもしろさ。今まで書店としてしか知らなかった場所にこうして関わることにより、その人を知ることにより、新たな関係や記憶が生まれる。また、店主だけでなく、書店の他のスタッフの方が一緒になって調べてくれたり、店主がインタビューの途中でお客さんにそのままの流れで話をふったり。ひとりの人を訪ねて来たのに、結果的にいろんな人と関わって、直接話を聞きに行く、その場でしか生まれないもの、つながりを実感しました。